

風"s・風のたよりオンライン版

2003/8/1 No.97

風のたより97号

なんて涼しい夏なんでしょう。

セミは、すぐ虫の音に変わりそうな今年の夏。プールや川や海の水しぶきは短い夏の合間で、ちょっとはねるだけ？

地球温暖化なのか、氷河期が近いのか、異変がそのまま続きいつのまにか生活が激変するのではないかしら？ このままの生活を続けていたのなら・・・

また、政治に無関心を続けたのなら、沖縄・広島・長崎で起きた事はいったい・・・？ GAIAの会では、マイカップサロンで住基ネットの勉強会を毎月1回開いています。監視社会はゴメンです。徴兵も勿論!!

■ 8回目のあいち国際女性映画祭 開催!

9月3日～7日の5日間の前売りチケット販売中!(3～5日、未来食おにぎりも販売します。ウィルあいち1Fショップ 風"sにて)

<http://www.will.pref.aichi.jp/main03/main03.html>

「世界で活躍する女性監督」(以下はウィルあいちニュース No.40より)

中国という異郷の地でたくましく生き抜いたオーストリア女性の生涯に描いた大河ドラマ「愛にかける橋」はスイス在住のフォー・メイ監督が来場予定。

DVの夫から逃れた女性が周りに支えられ明るく生きてい「ギャラクシーによろこそ」はパトリシア・プラトネール監督作品。

イギリスからは60年代のカルチャー・シーンも懐かしいサンドラ・ゴール・バック監督の「ミー・ウィズアウト・ユー」。韓国の若い世代が描いたラブ・コメディ「パーフェクト・マッチ」はモ・ジウン監督が来場します。

詩人塔和子さんの詩を吉永小百合さんが読み上げ、ハンセン病隔離政策の悲しみと怒りを問いかける「風の舞い」は宮崎信恵監督が来場します。

「ナヌムの家」等のドキュメンタリー作家ビヨン・ヨンジュ監督初のドラマは「密愛」。デンマークの子供たちがいきいきと活躍する「アクセルの挑戦」はピア・ボヴィン監督が来場します。

フィリピンの大ベテラン、マリルー・ディアス＝アバヤ監督の「光、新たに」は今見るべき問題を多く含んだ反戦映画。若いクリエイターを育てるにニューシネマワークショップから長編アニメとして「もも子、かえるの歌が聞こえるよ」も登場。ぜひお子さんとご一緒にご覧ください。

カンヌ国際映画祭でも話題を呼んだ「沙羅双樹」は河瀬直美監督も来場します。インドネシアの女性監督ナン・アハナス監督の作品は「囁く砂」と「ベンデラー旗ー」の2本を上映します。

女の子がサッカー選手になるという夢をあきらめずに貫く「ベッカムに恋いして」はグリダ・チャータ監督。

フィリピンから香港へ出稼ぎに出た母を愛しながらも反発してしまう母娘の確執を描いた「母と娘」はロリー・B・キントス監督。

カナダへ写真花嫁として渡った祖母の過去への旅をたどる「おばあちゃんのガーデン」は孫のリンダ・オーハマ監督作品。

100歳を迎えてなお現役の日にリーフェン・シュタール監督の新海の世界『ワンダー・アンダー・ウォーター 原色の海』も必見です。

また、愛知県興業協会の協賛により日本映画名作4本を特別上映しますが、今年是小津安二郎監督生誕100周年を記念し、「東京の合唱(コーラス)」を広く海外でも活躍している女性弁士澤登翠さんの活弁つきでウィルホールで上映します。楽団演奏つきの活弁は今ではなかなか見るチャンスがありません。

■ 映画祭の魅力は!

監督や主演女優さんたちが上映後、舞台に登場！観客と語りあいます。それぞれの人生に照らしあわせて観る観客の思いと、監督の思い、演じた人の思い、それぞれが語りあう「上映後ゲストトーク」。このトークの予定があるのは要チェックです。

是非ホームページから観て日程を組んで観て下さい。前売り800円です。風"sにて販売中。

電子メール：huzu@huzu.jp

ウェブページ：<http://www.huzu.jp/>

風の交差点 風"s